

政田幹夫 大阪薬科大学学長。'79京都大学大学院薬学研究科博士課程修了。専門は臨床薬理学、医薬品情報学、薬剤疫学。福井医科大学教授、福井大学教授などを経て'15から現職。

鎌田 薫 本連盟会長・早稲田大学総長。'75早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。民法専攻。法科大学院協合理事長。主著『民法ノート・物権法①』他。

山田耕太 敬和学園大学学長。'86英国グラム大
学神学系大学院博士課程修了。Ph.D.（新約聖書学）。'15から現職。主著『フイロンと新約聖書の修辞学』他。

高橋繁浩 中京大学スポーツ科学部 学部長、教授。中京大学大学院体育学研究科修了。'90同大学体育学部専任講師、'94同大学水泳部監督に就任。'10から現職。

吉村雅文 順天堂大学スポーツ健康科学研究科教授。博士（スポーツ健康科学）。スポーツ健康科学部学部長補佐。

高増 明 関西大学副学長、学生相談・支援センター長、社会学部教授。'88京都大学経済学博士。'06関西大学社会学部教授、'16から現職。

土屋 純 早稲田大学スポーツ科学学術院教授。'89東京大学大学院教育学研究科修士課程修了、'91同博士課程退学。博士（人間科学）。早稲田大学競技スポーツセンター前所長。

奥村信幸 武蔵大学社会学部教授。'89上智大学大学院博士前期課程修了。修士（国際関係学）。テレビ朝日記者／ディレクターを経て立命館大学産業社会学部教授、'14から現職。

其田雅美 東北学院大学学長室地域共生推進課。'02東北学院大学法学部卒。東日本大震災直後から現在まで、大学ボランティア組織の職員スタッフとして活動。

坂田 隆 石巻専修大学理工学部教授。'78東北大学大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程修了。'89石巻専修大学助教。教授、理工学部長、大学長を経て、'16から現職。

繁森 隆 慶應義塾塾監局管財部部長。'83東京国立大学工学部建築工学科卒業。旭化成工業(株)を経て、'92慶應義塾に入職、'13から現職。

井上博司 熊本学園大学総務部総務課課長。熊本商科大学（現・熊本学園大学）経済学部卒。'91熊本商科大学に入職、'16から現職。

山口洋典 立命館大学共通教育推進機構准教授。'05大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了。'11から現職。災害復興支援室には設立から携わり、'14から副室長。

寺野 彰 獨協学園理事長。'66東京大学医学部卒。'94獨協医科大学消化器内科主任教授、その後、教務部長、病院長を歴任。'04同大学長、'06から現職。

板垣品仁 (株)マイナビ転職情報事業本部「マイナビ転職」編集長。'92東洋大学文学部史学科卒業後、(株)毎日コミュニケーションズ（現マイナビ）入社。'12から現職。

鳥森浩一郎 (株)マイナビグループ経営統括本部調査部長。'98慶應義塾大学経済学部卒。第一生命保険を経て、'04北海道大学大学院修士課程修了。'07入社、'17から現職。

田中 岳 東京工業大学教育革新センター教授。'09名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程単位取得退学。京都精華大学職員、九州大学准教授を経て、'16から現職。

御法川卓爾 みのりかわたくじ 関西学院大学国際連携機構事務部課長補佐。'01関西大学卒、株式会社セブーンイレブンジャパンで経営カウンセリング職を経験後、'06学校法人関西学院に入職。'15から現職。

粟原友美 あはらともみ 学校法人フェリス女学院 大学事務部企画・広報課 課長補佐。'01日本女子大学人間社会学部卒。

工藤 潤 くどう じゆん 公益財団法人大学基準協会事務局 長兼大学評価・研究部長。桜美林大学大学院国際学研究所修士課程修了。'88大学基準協会入局、'08大学評価・研究部長、'12事務局長。

馬場崎賢太 ばばさきけんた 広島修道大学法学部助教。'10西南学院大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。

宮原育子 みやはらこ 宮城学院女子大学現代ビジネス学部 学部長。'97東京大学大学院理学系研究科地理学専攻博士課程修了。博士（理学）。宮城大学を経て、'16から現職。

北村和夫 きたむらわづお 聖心女子大学副学長、教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。教育学・日本教育史専攻。'11から副学長（評価・大学院担当）。

望月幸光 もちづきゆきみつ 明治学院大学事務局次長兼横浜管 理部長。'86入職。情報センター第二課長、総務部総務課長を経て、現職。横浜キャンパスプロジェクト統括責任者。

下川邦泰 しもがわくにやす 追手門学院大学就職・キャリア支援課長。

保坂邦夫 ほさかくにお 昭和女子大学広報部長。同大学入試広報課長、学校法人企画・広報部長を経て現職。

田山寛豪 たやまひろたか アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロオリンピック4大会連続でトライアスロン日本代表選手。流通経済大学職員。

山岡三子 やまおかみづこ フリーアナウンサー。学習院大学卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。博士（社会デザイン学）。名古屋短期大学客員教授。

〈お断り〉 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2016年 11月・12月

《会合等出席》

● 11月4日(金) 関西大学創立130周年記念式典に出席

● 11月8日(火) 第7回常務理事会に出席

● 11月10日(木) 日本私立大学団体連合会「私学振興大会2016」に出席

● 日本私立大学団体連合会(会長・鎌田薫早稲田大学総長、当連盟会長)、日本私立短期大学協会ならびに日本私立高等専門学校協会は、「私大の危機! 国の私学助成1割切る!」と題し、平成29年度私立大学関係政府予算と税制改正への私立大学側の要望実現に向け、本大会を開催しました。

大会の冒頭、鎌田会長からは、平成27年度の経常費の補助割合が10%を切るにいたったことへの強い危機感が示され、補助金や授業料減免、奨学金制度に不合理な国私間格差があるなかで、私立大学等の自助努力も限界にきており、いままそ私立大学等の社会的な役割について広く理解を求める必要があるとの挨拶がありました。

● 11月14日(月) 自民党「科学技術・イノベーション戦略調査会」のヒアリングに出席

● 11月25日(金) 全私学連合「私学振興協議会」に出席

● 11月29日(火) 第9回理事会・第2回秋季総会に出席

● 11月30日(水) 文部科学省・経済産業省の「イノベーション促進産学官対話会議」に出席

● 12月6日(火) 第8回常務理事会に出席

● 12月6日(火) 第8回常務理事会に出席

《予算・税制要望等》

● 11月8日(火) 財務省主計局に、私立大学経常費補助の現状を説明

● 11月8日(火)、10日(木)、12月5日(月) 主要国会議員へ、私立大学等経常費補助金拡充、受託研究の非課税化等を要望

● 12月8日(木)、14日(水) 主要国会議員に税制改正のお礼および私立大学等経常費補助金拡充を要望

● 12月21日(水) 松野博一文部科学大臣、主要国会議員に私学関係政府予算および税制改正のお礼

● 12月21日(水) 松野博一文部科学大臣、主要国会議員に私学関係政府予算および税制改正のお礼

開催報告

● 11月24日(木)・25日(金) 「学生支援研究会議」開催

「学生支援の視点から考えるウエルネス構築と危機管理」をテーマに開催。45名84名の参加がありました。

● 12月2日(金)・3日(土) 「財務・人事担当理事者会議第2回全体会議」開催

「学校法人が設立する事業会社の可能性」をテーマに開催。59法人96名の参加がありました。



国会議員に私立大学の現状を説明する鎌田会長



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第344号（2012年5月発行）から

詳細は

<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou>



第368号（2016年5月発行）

【特集】

高等教育は持続可能なのか



【座談会】

「入試改革」のこれまでと、これから

【小特集】

教職員の心の健康

【インタビュー】

森田 隼人氏（シャボン玉石けん株式会社 代表取締役社長）

第369号（2016年7月発行）

【特集】

選挙と大学



【座談会】

「医師」を育てるとは——医学部教育の現在

【小特集】

大学改革とSD 義務化

【インタビュー】

高橋 尚子氏（スポーツキャスター・マラソン解説者）

第370号（2016年9月発行）

【特集】

大学における障害者差別解消に向けた取り組み



【座談会】

大学は発達障害をどう受け入れるのか

【小特集】

大学のIR活動における取り組み

【インタビュー】

杉本 健爾氏（書道家・美文字トレーナー）

第371号（2016年11月発行）

【特集】

宗教系学部・学科の現在と意義



【座談会】

新たなインターンシップの意味付け

【小特集】

保健室のいま

【インタビュー】

渡辺美和子氏（株式会社渡辺教具製作所取締役会長）

座談会 「リベラル・アーツ教育はいま」

特集 「国による給付奨学金創設を機に奨学制度全体を俯瞰する」

小特集 「リベラル・アーツ教育は普遍か～10年間の振り返り～」

表紙・大学点描 愛知大学 だいがくのたから 阪南大学

クローズアップインタビュー：「東山彰良さん（作家）」

編集後記

◆東日本大震災以降、広島土砂災害、熊本地震をはじめ、国内では、地震や台風、豪雨、大雪、突風、洪水などのさまざまな自然災害が地域を選ばず発生している。昨年末に新潟県糸魚川市で発生した大火災も自然条件が大きく影響したと報道されている。人知を越えた自然の脅威に対して何ができるのか。東日本大震災で何が変わったのか。6年目を迎える年明け1月、将来を展望するタイミングで、継続されている各大学の取り組みについて、個人的な思いも含めてご寄稿いただいた。公共性と教育研究機能を併せもつ大学が、人と人、地域や遠隔にある組織をつなぐとともに、熱意や創意工夫による新たな教育や仕組みを育み、「被災から未来への歩み」を持続的なものへと展開していく姿勢は、一大学人としてとてもたくましく、また誇らしくも感じられた。平穩な日常における高等教育では、プログラムの体系化や学習環境の充実が重視されがちになるが、そうした施設内での教育とは対極にある大学の新たな姿や可能性を

再認識する貴重な機会となった。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・立命館大学総合企画部広報課長 片岡達彦)

◆小特集「社会人採用のいま」は人事に関わることであり、なかなか本音が出にくいのではないかと想像していたが、執筆者の方々からは率直かつ本質的な指摘を数多くいただき、社会人採用の今後を考えるためのヒントが得られた。私自身も転職者だが、入職当初は「社会人採用者に求められること」を意識し過ぎるあまり、空回りすることもあったように思う。しかし目の前の業務以外の、大学の多種多様な活動や人にも目を向けられるようになってから、自分のこれまでの経験と新しく学ぶべきことの間にいいバランスが生じていったように感じが増え、さらに多様化している。大学職員の業務の量が今、おそらくそのような気付きについて落ち着いて学ぶ機会はますます減り、自ら見出していかなければならないことが増えていくだろう。これも社会人採用者に求められる姿勢の現状といえる。新たな社会人採用者に積極的に声掛けし、そのような気付きや悩

みを共有していくことは、大学としての組織力を上げていくことにつながるのではないだろうか。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学総務局SGU事業推進室長 中山 映)

お詫びと訂正

371号「連盟ニュース」の「平成28年度秋の叙勲・褒章(連盟事業関係者)」(122頁中段6行目)において、受賞者のお名前を「加藤諦三」氏と掲載すべきところ、誤って「加藤縮三」氏と掲載いたしました。ここに事務局よりお詫びを申し上げます。

なお、WEBに掲載しておりますPDF版につきましても、訂正したものを掲載させていただきます。ご報告申し上げます。

私大公式Facebookページ

公式Facebookページ (http://www.facebook.com/shidai) を開設いたします。

次号「大学時報」の進捗報告や「私立大学フォーラム」などの無料イベントに関するご案内など、ここでしか見られない情報も発信しています。

